

「BCS賞特別対談」  
**建築の歴史を映し、  
 未来を示す建築賞「BCS賞」**



BCS賞のあらまし

「BCS賞」は、建築にかかわる事業企画の質および計画・設計、施工、維持管理その他建築技術の進歩向上を図り、もって良好な建築試算を創出し、わが国の文化の進展と地球環境の保全に寄与することを目的に、1960（昭和35）年に創設された建築賞です。この賞の特徴は、建築の全プロセスに関する総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する点にあります。賞の対象は種類・規模にかかわらず、国内において建築された建築物ないし建築群で、供用開始後1カ年以上経過したものです。

本賞で選ばれた作品のほか、特別賞として、環境への配慮、革新技術の適用、建物修復など伝統技術の継承、都市再開発の推進等、固有の課題に対する取組みで特に優れていると認められた作品を選考することがあります。

慶應義塾大学 教授

**伊香賀俊治**

日本建設業連合会 副会長 優秀建築表彰委員長・広報委員長

**宮下正裕**

し（上）にあるようにたいへん特徴的な建築賞で、建物を企画から維持管理にいたる全フェーズについて総合的に評価します。また、建築主・設計者・施工者に連名で応募いただき、表彰式ではその三者を表彰します。これがこの賞の最大の特徴となっています。

**伊香賀** 同感です。BCS賞は、客観性が保たれている公平な建築賞と感ずるのはそのあたりからきていると思います。

**宮下** 選考方法にも特徴があります。創設当初は選考委員長を置いて進めていましたが、第三回以降は委員の方々の合議制となりました。委員は、学識経験者、建築家、建設会社の三分野から四名ずつ、計一二名を選出しています。受賞作品決定前に専門の異なる三名が一組で現地調査をすることも特徴の一つです。

さて、先生は応募者としてのご経験もありませんが、BCS賞に対してどんな印象をお持ちですか。

**伊香賀** 数ある建築賞の中でも一番緊張する賞だと感じています。現地調査もそうですが、応募者は、

**五六年の歴史を持つ建築賞**

**宮下** 本日は、広報誌「ACE建設業界」二月号から新連載「BCS賞受賞作品紹介」を始めるにあたりまして選考委員をお務めいただきました伊香賀先生とBCS賞のこれまでの歩みを振り返り、今後の期待を展望いただきましたと思います。

先生もご存知の通り、BCS賞は、一九六〇年から続く歴史ある建築賞で、今年で五七回になります。建築をデザインだけではなく、施工技術も含めて評価しようという創設時の趣旨には、施工技術発展への期待が込められていました。BCS賞は「BCS賞のあらまし



施工技術・デザイン・構造・環境  
設備・運用といった面について  
応募資料に示さなければなりません。

**宮下** 応募は建築主の理解が前提  
にあるわけですが、その点につ  
てはいかがですか。

**伊香賀** 建物を運用していく上で  
大なり小なり課題は出てきますが、  
少なくとも竣工後一年は三者の良  
好な関係が保たれていたというこ  
とになります。信頼という土俵が  
あって初めて応募が可能になると

いう点で、かなりハードルの高い  
賞でもありますね。

**建築の歴史を映す賞**

**宮下** さきほど申しました特徴は、  
BCS賞の五六年という長い歴史

の中で変わりませんが、この間に  
社会や建築に対するニーズは大き  
く変化しています。今あらためて  
思い返してみますと、受賞作品が  
歴史を反映していることを実感で  
きます。これは選考基準を時代に

「建築は健康や  
知的生産性に貢献」



慶應義塾大学 教授  
**伊香賀俊治**  
いかが・としはる◎早稲田大学理工学部  
建築学科卒業、同大学院修了後、(株)日  
建設計入社。東京大学助教授を経て06  
年より現職。専門分野は建築環境工学。  
日建連では13-14年にBCS賞選考委員  
を務める。

**建築における健康と  
知的生産性の向上**

**伊香賀** オフィスで働いている人  
が昼休みにふらっと出歩いて活動  
量が増えたり、リフレッシュスぺ  
ースの活用で頭の巡りがよく  
なっている仕事ができたり。ある  
いは異業種の会社が集まる交流の  
場をつくるという流れが活発にな  
り、街が豊かになるのではないで  
しょうか。

建築が時代を反映する中で、私  
が特に注目していることは健康と  
生産性、特に知的生産性の向上へ  
の貢献です。おそらく、昔から設  
計者があまり意識をせずにつくっ  
ていた形、たとえば、様々な部署  
の方が偶発的に顔を合わせるオフ  
イスの内部階段を建築空間的に積  
極的に取り入れる動きがあります。  
先に述べた街とのつながりもそう  
ですが、そういった働いている人  
の知的生産性やその会社で働き続  
けたいという意欲や入社を決断す  
るきっかけといった面にも建築は  
かなり寄与しているはず。そ  
れを証明する研究データがようや

く蓄積されてきたので、注目を集  
めるようになると思っています。

**宮下** そうですね。そういうオー  
プンな階段などの建築空間が知的  
生産性にもかかわっていて、それ  
が先生のご研究で蓄積された客観  
的なデータによって説得力を持つ  
ようになってきました。これは建  
築空間や環境が人の行動にかかわ  
っているということの証明で、こ  
れは凄いことだと思っています。

**いかにして建築の価値を  
発信するのか**

**宮下** 私は広報委員長でもありま  
す。日建連といたしましては、B  
CS賞と受賞作品の紹介を通して、  
一般の方々に建築に対してより深  
く親しんでもらうことで建築に対  
する認知度を高め、建設業界に入  
ってくださる若者が増えるようにし  
たいと思っています。そのためには、  
この連載などとともにまず受賞作  
品を体験してもらおうこと、特に  
お子さん向けの見学会等を拡充す  
ることを考えています。

**伊香賀** 私も同感です。それにつ  
いて一つの案ですが、PR方法を

合わせているのではなく、時代の  
先端を行く選考委員の先生方が自  
ずと時代を反映する建築作品を選  
ばれているということではないか  
と思うのです。

たとえば「環境」という言葉は  
時代によって様々な意味合いを持  
ってきました。このあたりについ  
て、先生のご専門である環境工学  
の分野から状況をお聞かせ願えま  
すか。

**伊香賀** オイルショック以降、省  
エネルギーの法律ができて、まず  
満たしているのか、最低レベルを  
どのくらい上回っているのかを客  
観的に指標するようになりました。  
その後C A S B E Eという建築の  
環境性能を総合的に評価する指標  
が開発されて、省エネだけではな  
く耐震性能とか、五〇年、一〇〇  
年使い続けられる性能とか、そう  
いうものを総合的に評価するよう  
になりました。BCS賞の応募資  
料には、これらがきちんと組み込  
まれてきています。また東日本大  
震災以降、事業継続性(B C P )  
や生活継続性(L C P )について

少し変えるだけで、一般に広がる  
機会は増えるのではないでしょう  
か。こんな建物ができましたとい  
うプレスリリースではなく、たと  
えば、世界で通用する製品を生み  
出した研究所とか、欠勤の多かつ  
た社員が移転をきっかけに回復し  
たオフィスといった具合に、健康  
や知的生産性の向上への寄与をP  
Rするのです。

**宮下** 建築によってこういった価  
値が創造されているかをPRする

の記述が増えたことから、応募者  
も時代の流れをしっかりと捉えてい  
るということを感じますね。

**宮下** そうですね。BCS賞には  
特別賞がありますが、その選定理  
由の一つに、特定の課題への対応  
があります。特別賞受賞作品は、  
特に時代を反映しているといえま  
す。

**伊香賀** 私が選考委員をした二〇  
一四年の特別賞は「東京駅」と  
「スカイツリー」でした。  
**宮下** それは正に時代を象徴する  
建物です。

また、BCS賞には第一二回か  
ら個々の建物だけでなく、それが  
周辺環境にいかにも適合しているか  
という評価軸が加わりました。そ  
ういった「街とのつながり」とい  
うテーマが昨今さらに意識されて  
いるように思うのですが、いかが  
ですか。

**伊香賀** たとえば日本橋の再開発  
のように、建物を単体のデザイン  
として考えるのではなく街並みと  
して捉えることはますます重要に  
なってくると思います。そうする  
ことで自ずと人が集まってきます。

ということですね。

**伊香賀** はい。プレスリリースに  
は建物名称ではなくキャッチフレ  
ーズを前面に出すことで記者の方  
は情報を拾いやすくなるはず。す  
**宮下** 一般の方が興味を引くよう  
な建物の売りを述べたキャッチフ  
レーズを、応募資料の段階で記載  
してもらうのもよいかもしまし  
せん。これからの時代の趨勢を反映  
しつつ、BCS賞さらには建築の  
価値を発信し続けていきます。

「BCS賞のPRで  
建築への認知度向上を」



日本建設業連合会 副会長  
優秀建築表彰委員長・広報委員長

**宮下正裕**

みやした・まさひろ◎東京大学工学部都  
市工学科卒業、(株)竹中工務店入社。常  
務、専務、副社長を経て、13年から社長。  
日建連では副会長のほか優秀建築表彰委  
員長、広報委員長も務める。